

研究指定校名 : 鳥取市立津ノ井小学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立津ノ井小学校
学級数	14学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全児童数：252人（平成29年2月1日現在）
URL	http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/tunoi-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

「自らの考えを持ち、進んで学び合う子どもの育成」

～「授業のユニバーサルデザイン」の視点を活かした算数科の授業づくり、集団づくり～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校の児童の課題として、「自尊感情が低い」「自分に自信を持ってない」「発表する子が限られている」「周囲に流されやすい」といったものが挙げられる。その課題を解決するべく、人権尊重の視点に立ち、一人ひとりを大切にしたい授業づくりの研究に取り組んできた。中でも人権教育における指導方法の基本原則である「協力」「参加」「体験」の要素を含み、児童に自己存在感を持たせ、共感的に人間関係の育成につながる「授業のユニバーサルデザイン研究（以下UD）」を拠り所にした研究を平成25年度から3年間継続してきた。

特に、平成27年度からは「わかった・できた」を児童自身により実感させたい、学習意欲の向上をもっと図りたい、児童をより主体的に学習に向かわせたいという課題意識から、人権感覚を鋭敏にする合理的・分析的思考力の育成にもつながる算数科の研究を進めてきた。

これまでの成果として「どの学級でも落ち着いて学習に向かう姿勢が見られるようになった」「ペアやグループで考えを交流することに対する抵抗が少なくなってきた」など、児童の変容が見られた。UDの視点を生かした学習環境づくり、確かな学びを保障する指導方法の工夫・改善を図ったことで、児童一人ひとりが大切にされた授業が展開され、授業における児童の自己存在感や共感的人間関係の育成につながってきたことが窺われた。

一方で、教育的な支援を要する児童が、全国調査（6.3%（H19））と比較して同等もしくはそれ以上の割合で、各学級に在籍しているという本校の実態がある。「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」でも、「『確かな学力』を育むためにも、（中略）学ぶことの楽しさを体験させ、望ましい人間関係等を培い、学習意欲の向上に努めることが求められている。」とあり、児童一人ひとりの個性を尊重し、伸ばさせていくためには、授業づくりの土台となる共感的人間関係の育成についても同時に研究を進めていくことが効果的と考えた。

これらを踏まえ、平成28年度は、「自らの考えを持ち、進んで学び合う子どもの育成～『授業のユニバーサルデザイン』の視点を活かした算数科の授業づくり、集団づくり～」を研究テーマとし、以下の2つを研究の柱とした。

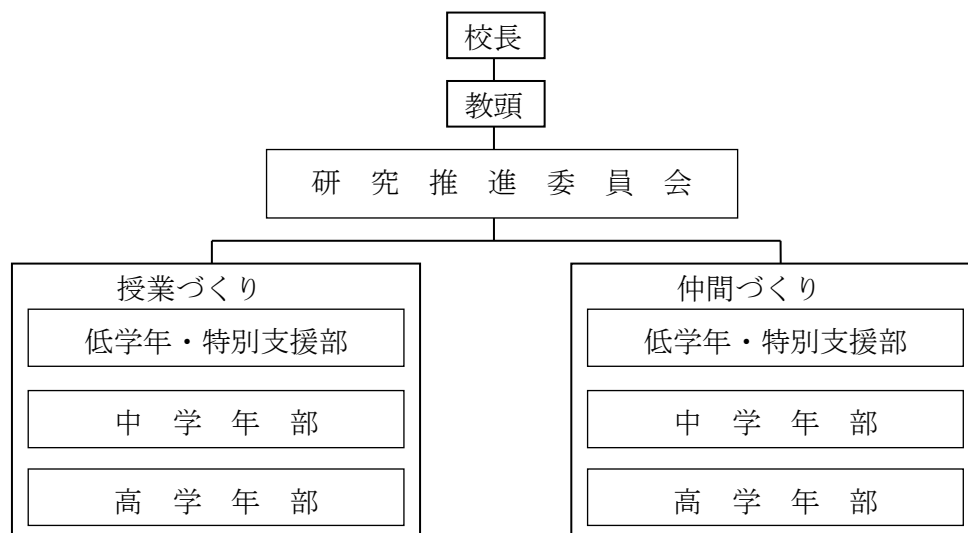
○UDの視点に立ち、主体的に考え、友達と学び合うことによって「分かる・できる」を達成する授業づくり

○児童が主体的に学び合うために土台となる認め合い、支え合う仲間づくり

2つの研究の追求をとおして、児童一人ひとりに自己存在感を持たせ、共感的人間関係を育成することで、自尊感情を高めるとともに、自他の違いを認め、尊重しようとする意欲や態度を育て、目標に向かって主体的に取り組む児童を育てることとした。併せて、合理的・分析的

思考力を高めることで、「私としては正しい」にとどまるのではなく「人として正しい=人権」に迫ろうとする児童を育てることとし、これらをとおして自分の大切さとともに他の人の大切さを認められるような児童が育成できると考えた。

3. 調査研究の推進体制



〈関係協力機関〉 ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

①UDの視点に立ち、主体的に考え、友達と学び合うことによって「分かる・できる」を達成する授業づくり

○UDの視点（焦点化・視覚化・共有化）を意識した算数科の授業づくりの研究

- ・授業の「足場・山場」（授業展開1の後半部分で、子どもたちが「分かった」「できた」と感じる）を意識した授業構成（焦点化）
- ・意欲を持たせる導入の工夫、「しかけ」（教材の提示の仕方、発問の工夫等、学習意欲が高まるよう工夫したもの）づくり（焦点化）
- ・具体物やICT機器を活用した授業展開（可視化）
- ・学び合い（ペア学習、グループ学習）の工夫（共有化）



ねらいとする授業づくりに向けて作成した授業構造図



ICT機器を活用し、言葉・内容・論理構成を見える化



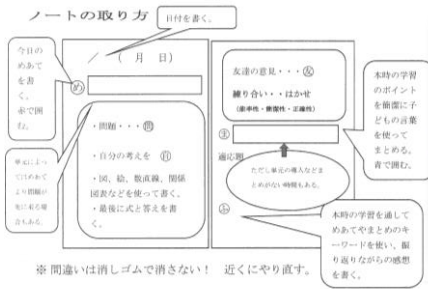
ペア・グループ等を活用し、考えを共有化（学び合いの工夫）

○学力向上に向けての工夫

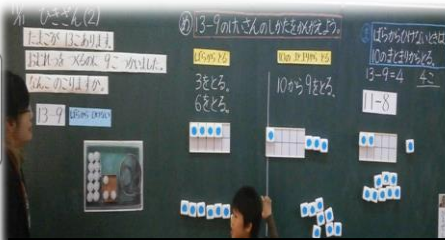
- ・すっきりタイム等を活用した計算力の向上
- ・チャレジテスト、月末テストの実施
- ・算数の意識調査の実施

○算数科授業を支える環境づくりの研究

- ・ノートの取り方（フォーマット）、板書の工夫の共通理解・共通実践
- ・ミニホワイトボードを活用した学び合い活動の充実



ノートの取り方（フォーマット）



子どもが「分かった」と感じる板書の工夫を教職員で共通理解、共通実践



ミニホワイトボードの活用

②児童が主体的に学び合うために土台となる認め合い、支え合う仲間づくり

○アセスや児童アンケートを活用した人間関係の把握（学級づくり）

- ・アセス（年2回）とそれに基づいた事例検討会
- ・「心のアンケート」（毎月実施）に基づいた個別面談・指導

○縦割り班活動の充実

- ・「ハッピータイム」を使つての学級遊び、縦割り班遊び・掃除
- ・縦割り班での交流給食
- ・グループアプローチを取り入れた取組の充実



アドジャンタイム（グループアプローチ）

○リーダー育成

- ・学級委員の設置とリーダー会議の運営

○全校統一しての取組

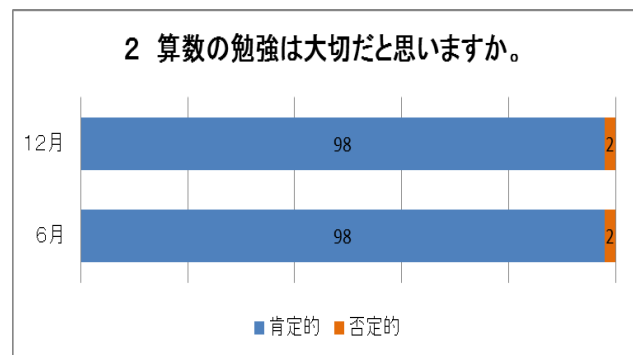
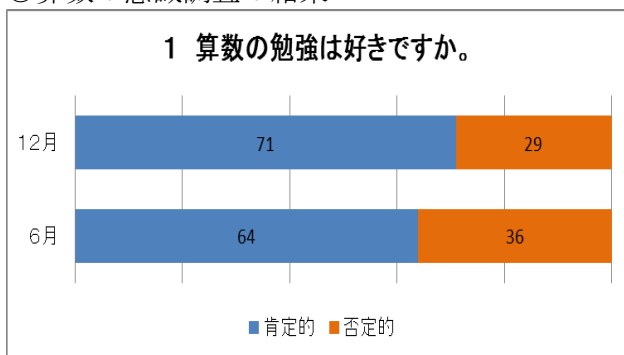
- ・黙想と「もくもく（黙々）掃除」
- ・あいさつ運動

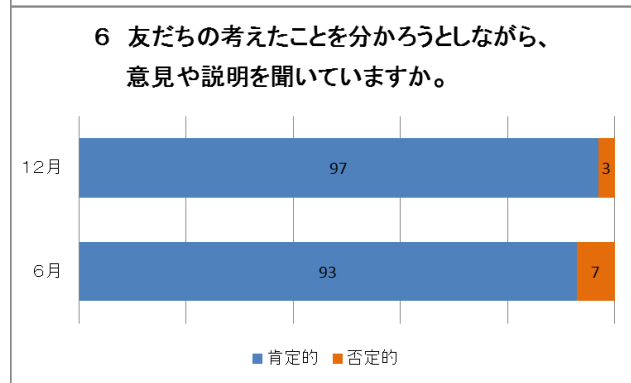
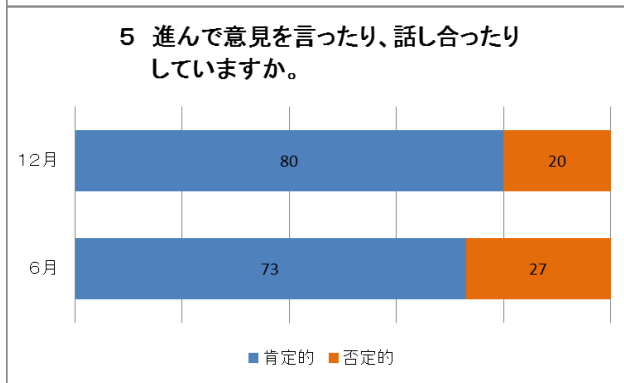
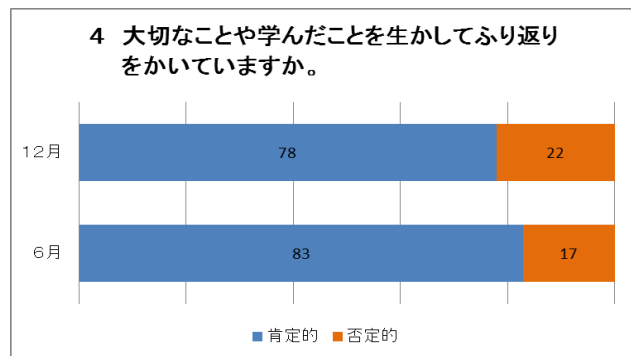
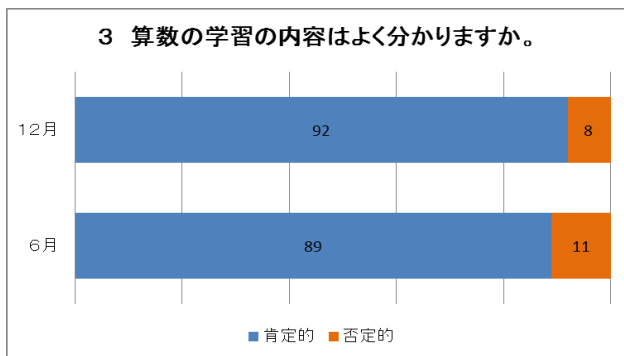
時期	内容	備考
4月 4日	第1回研究推進会議開催（研究推進について協議・検討）	参加者 7人
4月 14日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委2人）	参加者 5人
5月 30日	第2回研究推進会議開催（授業研究会の運営について）	参加者 7人
6月 10日	校内研修会（アセスについて）	参加者 20人
6月 16日	第1回全体授業研究会（3年2組） 〈指導助言〉 明星大学発達支援研究センター 京極澄子研究員 県教育委員会 広富隆史 指導主事、西垣栄太郎指導主事	参加者 22人
6月第3週	第1回算数意識調査、第1回児童アンケート実施	2～6年児童
6月 22日	校内研修会（第1回全体授業研究会の振り返りと今後の研修）	参加者 18人
6月 29日	校内研修会（第1回算数意識調査等の分析と考察）	参加者 18人
7月 6日	第2回全体授業研究会（6年2組） 〈指導助言〉 県教育委員会 平山晋治 指導主事 広富隆史 指導主事 西垣栄太郎指導主事	参加者 21人
7月 8日	部会別授業研究会（たんぼぼ学級）	参加者 6人
7月 20日	部会別授業研究会（なしのみ学級）	参加者 6人
8月 4日	校内夏季研修会（算数科におけるUDの具体的手立て） 講師 山口県萩市立明倫小学校 伊藤幹哲 教諭	参加者 17人

9月 7日	校内研修会（アセス事例検討会）		参加者 16人
9月16日	部会別授業研究会（2年1組）		参加者 6人
9月28日	第3回全体授業研究会（2年2組） 〈指導助言〉 県教育委員会	平山晋治 指導主事 広富隆史 指導主事 西垣栄太郎指導主事 山本裕児 指導主事	参加者 21人
10月 7日	第3回研究推進会議開催（前期の振り返りと今後の研修）		参加者 7人
10月12日	第4回全体授業研究会（5年1組） 〈指導助言〉 県教育委員会	平山晋治 指導主事 広富隆史 指導主事 西垣栄太郎指導主事	参加者 18人
10月25日	部会別授業研究会（1年生）		参加者 6人
11月11日	第5回全体授業研究会（1年2組） 〈指導助言〉 県教育委員会	平山晋治 指導主事 広富隆史 指導主事 西垣栄太郎指導主事	参加者 22人
11月11日	先進校視察（東京都日野市七生緑小学校）		参加者 2人
11月22日	部会別授業研究会（4年1組）		参加者 6人
11月29日	部会別授業研究会（4年2組、5年2組）		参加者 11人
12月 6日	第6回全体授業研究会（4年2組） 〈指導助言〉 明星大学発達支援研究センター 京極澄子研究員 県教育委員会	広富隆史 指導主事 西垣栄太郎指導主事 山本裕児 指導主事	参加者 23人
12月15日	部会別授業研究会（1年1組）		参加者 6人
12月16日	部会別授業研究会（6年1組）		参加者 5人
12月21日	校内研修会（アセス事例検討会）		参加者 17人
12月第3週	第2回算数意識調査、第2回児童アンケート実施		全児童
1月19日	部会別授業研究会（3年1組）		参加者 6人
1月30日	校内研修会（第2回算数意識調査等の分析と考察）		参加者 17人
1月31日	校内研修会（研究の振り返り）		参加者 17人
2月下旬	研究報告の印刷・配付		50冊
3月 1日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委10人）		参加者 28人

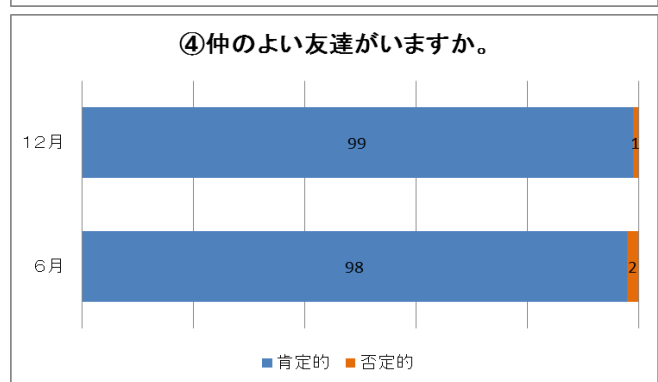
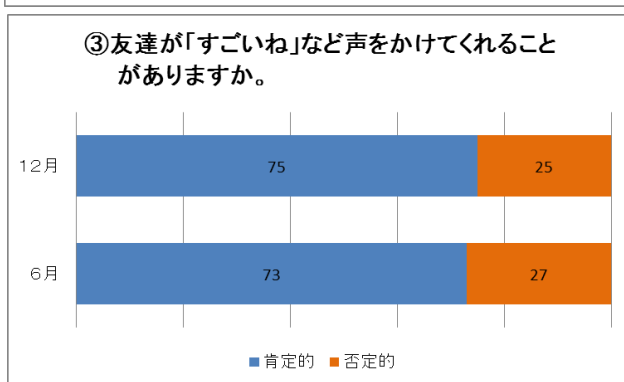
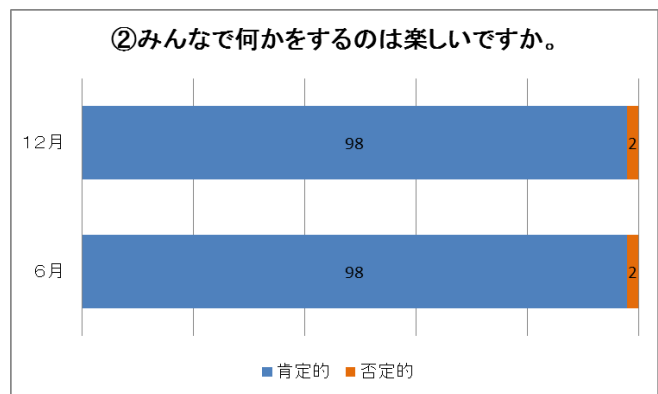
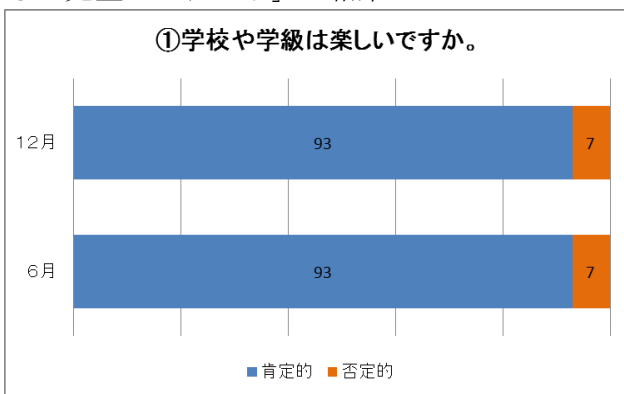
（2）調査研究の成果と課題

○算数の意識調査の結果





○「児童アンケート」の結果



[成果]

- ①UDの視点に立ち、主体的に考え、友達と学び合うことによって「分かる・できる」を達成する授業づくり
- ・徐々に算数の授業が「好きだ」あるいは「学習内容がよく分かる」と答える児童が増えてきた。UDの視点に立った授業改善の意識が高まり、実際の授業場面での手立てが明確になったためと考えられる。
 - ・算数の意識調査結果から「進んで意見を言ったり、話し合ったりしていますか」「友だちの考えを分かろうとしながら、意見や説明を聞いていますか」といった友達との関わり合いにかか

る肯定的な回答の割合が向上している。ペア学習やグループ学習、さらには全体での効果的な話し合いの仕方など学習中の集団づくりを意識し、学習を進めたことで、児童全員が「参加（活動する）」できる学習展開になり、児童が他者と積極的に関わろうとする意識が向上したのではないかと考えられる。

- ・本年度は、全体研究会を全学年で行った。そのことで、毎回課題となることを共通理解したり、新たなUDの具体的な手立てに触れたりすることができ、回を追うごとに研究の深まりを感じることができた。

②児童が主体的に学び合うために土台となる認め合い、支え合う仲間づくり

- ・「学校は楽しいか」「みんなと何かするのは楽しいか」という「学校アンケート」の問いに対して、1回目も2回目も変わらず、9割以上の児童が肯定的な回答をしている。また「友達から『すごいね』などの声かけ」や「仲のよい友達」の問いに対しては、大きな変化はないものの、肯定的な回答が多く、良好な仲間関係がうかがえる。
- ・月に一度「心のアンケート」を実施した。このことにより子どもの絶えず変わりゆく些細な悩みや人間関係の問題について把握すると共に、気になる子どもに対しては悩み等を聞き取るきっかけになった。問題が大きくなる前に教職員が対応できるだけでなく、日ごろから子どもの人間関係を教職員が意識したりすることにもつながった。また、そのことで子ども同士の中に安心感も生まれたと思われる。
- ・全校で取り組んでいる児童会を中心とした「あいさつ運動」や「もくもく（黙々）掃除」の取組は、学級だけでなく、学校全体の協働性が向上し、支え合う仲間づくりの風土を育んでいる。

[課題]

①UDの視点に立ち、主体的に考え、友達と学び合うことによって「分かる・できる」を達成する授業づくり

- ・算数の意識調査結果から学力が低位の児童の変容があまり見られない。さらに個別の手立て等の支援が必要であると考えられる。
- ・今後は児童全員「参加（活動する）」の授業から一歩進め、「理解（分かる）」「習得（身につける）」「活用（使う）」まで育成できるように取り組んでいきたい。

②児童が主体的に学び合うために土台となる認め合い、支え合う仲間づくり

- ・様々なアンケートの結果では、仲間づくりに関係する項目に対する肯定的な回答の割合が高いものの、学年差や学級差がある。まずは、学級での仲間づくりを基本に、日々学習場面、生活場面での手立てを工夫していく必要がある。
- ・朝の会や帰りの会など日常生活の中で認め合い活動は取り入れることはできる。さらに学習場面で質の高い学びの土台となるような仲間づくりになるためには、どのような手立てが学習場面で必要なかを考え、仲間づくりが学習の成果により生きるように取り組んでいきたい。